

## 第 13 回日本マレーシア研究会 (JAMS) 研究大会のご案内

第 13 回目を迎える今年度の JAMS 研究大会は中部大学名古屋キャンパスで、来たる 11 月 6 日(土)、7 日(日)の 2 日間にかけて開催いたします。JAMS の新しい規約と選挙制度のもとで選出された立本成文会長のまさにお膝元で開催される記念すべき研究大会ということになります。

初日は、中部地区での開催というチャンスを活かすべく、日本のマレーシア研究の重鎮のお一人である明石陽至先生の過去半世紀近くにおよぶご自身の日・マ関係研究を振り返っての講演をしていただくことになりました。新装の我が日本マレーシア研究会の今後の方向性を探る上でも、おおいに参考となるお話が期待されます。また個人報告では、北ボルネオにおける日本人の問題を長年追求されてきた望月雅彦氏および、マハティール政権の総括をされる鳥居高氏のそれぞれ興味深い論題が予定されています。

大会第 2 日目には、国立民族学博物館・地域研究企画交流センターの阿部健一氏のご協力を得て、国立環境研究所・熱帯生態系保全研究室長の奥田敏統先生に、マレーシアを中心とした熱帯林研究の現状についての特別講演をお願いすることができました。同氏は森林生態学がご専門で、半島マレーシア、パソーで熱帯林保全に関するプロジェクトに従事されてきました。同地は熱帯林に関する調査研究の「揺籃の地」ともいわれ、最初に日本の熱帯林研究がスタートした森林だということです。これまでの JAMS 研究大会ではなかなか伺うことのできなかつたトピックに触れる絶好の機会になると思います。さらに、個人報告では、綱島(三宅)郁子氏、久志本裕子氏、山田悠未氏の新進気鋭の 3 名が、それぞれ現代マレーシアを理解する上でも、真に興味深いテーマで多彩な視角から、日頃の研鑽の成果を開陳していただきます。

「マレーシアを研究する」というよりむしろ「マレーシアで研究する」という発想も(どこかで聞いたようなセリフでしょうか?)、JAMS の今後の一つの方向性として考えてもよいかと思われませんが、今大会がそのような仕掛けとなることも期待できます。また JAMS の研究会活動は関東地区と関西地区で活発に行われているようですが、その中間に位置する中部地区での今大会はその結節点でもありえますので、両地区の会員の方はいうまでもなく、広く全国から多くの方が今大会に奮って御参加いただきますよう祈念いたします

大会委員 富沢寿勇

## 第13回日本マレーシア研究会(JAMS)研究大会プログラム

開催日:2004年11月6日(土)、7日(日)

会場:中部大学名古屋キャンパス6階会議室(JR中央線「鶴舞」駅北口すぐ)

11月6日(土)

13:00 受付開始

13:30~13:40 開会の辞

13:40~14:40 記念講演「私の日本・マラヤ関係研究の50年」

明石陽至(南山大学)

14:40~14:50 休憩

14:50~15:40 報告1「英領北ボルネオの日本人:中川香港領事の視察復命書(1894年)を中心に」

望月雅彦(ボルネオ史料研究室)

15:40~16:30 報告2「マハティール時代を振り返って:政策と研究課題」

鳥居高(明治大学)

16:30~16:40 休憩

16:40~17:40 会員総会

18:30~20:00 懇親会

11月7日(日)

9:00 受付開始

9:30~10:20 報告3「豊かなるマレー語世界への一貢献:現代マレーシアにおける聖書およびキリスト教文献の翻訳について」

綱島(三宅)郁子(同志社大学)

10:20~11:10 報告4「Syed Muhammad Naquib Al-Attas の教育論にみる、現代マレーシア・イスラームの一側面」

久志本裕子(東京学芸大学大学院)

11:10~12:00 報告5「マレーシア華人新村研究:立地・形態計画の特徴」

山田悠未(豊橋技術科学大学大学院)

12:00~13:30 昼食・休憩

13:30~14:30 特別講演「マレーシアにおける熱帯林研究の現状:エコシステムマネージメントの可能性について」

奥田敏統(国立環境研究所・熱帯生態系保全研究室)

14:30~14:40 閉会の辞